

授業改善プラン

地域名	東葛飾教育事務所	学校名	鎌ヶ谷市立五本松小学校
-----	----------	-----	-------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

○令和5年度・令和6年度実施の全国学力・学習状況調査の本校の正答率は、全国平均正答率よりも高い結果であったが、「情報の取り扱いに関する事項」や「書くこと」、「記述式」の問題では、全国や県の正答率と同等か下回る結果であった。「原因と結果など情報と情報との関係」について理解できていないことがわかった。また、「記述式」では、条件と字数の制限を設けた作文の取組を行うなど、諦めずに最後まで取り組める児童を育成するための授業改善や工夫が必要であると考えた。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

○研究主題 「自分の思いや考えを表現できる児童の育成」～書く取組をとおして～
 ○研究仮説 「ひろげ・深める」場を充実させることで友だちとの対話から、考えや表現の仕方をよりよくしようとする姿が見られ、自分の思いや考えを豊かに表現できる児童が育つであろう。

3. 具体的な実践

昨年度まで実践してきた“全国学力・学習状況調査の分析”“目的意識・相手意識をもつことができる単元設定”“学校図書館活用”“グループ学習”“振り返りシート”の取組に加えて以下の実践を行った。
 ○毎週木曜日の朝学習の時間で書く活動の学習(短作文・語彙力)に全校で取り組む。
 ○加配教員・学習サポーターの導入による、書く力を向上するための有効的な活用方法を確立する。
 ○自分の言葉で考えをまとめる活動を国語以外の教科にも取り入れる。
 ○学習の到達点が児童にわかる工夫された学習計画と実践モデルプログラムの活用。

4. 成果

○学習目標を達成するための計画表や教師見本があることで、児童がゴールを見据え、見通しをもって授業に参加することができた。
 ○単元の最初に相手・目的を明確にすることで、見通しをもつだけでなく児童の意欲が継続する学習となった。
 ○国語辞典、漢字辞典、類語辞典を授業で活用したことで語彙力が高まり、様々な文章表現が国語以外の教科でもできるようになった
 ○児童アンケートから「いろいろな言葉を生活の中で使えるようになった」と感じる割合が向上した(年度当初から+11.4%)。
 ○ICTを授業に取り入れることで児童が自分の考えや気持ちを表現できる選択肢の幅が広がった。
 ○上位層と下位層の差が開いていたため、加配教員・学習サポーターの導入により個別支援や習熟度別の学習形態をとったことで手厚い学習指導・支援ができた。

◆担当指導主事から

○全国学力・学習状況調査の結果に基づいて児童の実態を丁寧に分析し、複数の情報を扱ったり、条件に基づいて書いたりする力の育成に取り組んできた。「広げ・深める場を充実させる授業改善」、「加配教員等による個に応じた指導・支援」、「日常的な取り組みによる表現力の向上」の3点を重点として全校体制で取り組むことで児童の学力向上につながった。